

私と短歌 河上 明美さん (城辺甲)

“相手に伝わる歌を詠みたい”

今年の3月末で活動を休止した新しくの葉短歌会で前田充先生の編纂の下、短歌誌の製本を担っていた河上明美さん。会に所属する前から短歌に興味を持っており、15年前に知り合いからの紹介で、新しくの葉短歌会になる前の「城辺短歌会(旧城辺町)」と、「御荘短歌会(旧御荘町)」の歌会に参加したのがきっかけで会に所属しました。

現在は短歌を学べる場所がさわらび短歌会だけになった河上さんは、「二つの会を両立するのは大変だったけど、活動がなくなるのは悲しい」と寂しさを見せます。

短歌の魅力について、「歌会で自分の歌が好評だったり、新しいことを学んだりすることができるのが短歌の楽しいところ」と話します。

作品は、広報あいなんに寄稿するほかに愛南町文化祭の歌会で披露したり、一本松文化祭で展示したりしています。

「読み手に自分の思いとは違う意味で伝わることもあるので、五・七・五・七・七の文字数に合わせて、伝えることは難しい」と話す河上さんは、今後の目標について、「紙と鉛筆があればどこでもできるので、元気でいるうちは続けていきたいし、会で学んだことを生かして相手に伝わる良い歌を詠んでいきたい」と語りました。



▲短歌について学ぶ河上明美さん

【新しくの葉短歌会】
 ○御荘より城辺より友ら集ひ来て
 歌詠み合ひし日々を忘れず
 前田 充
 ○踏み分けし短歌の道の深ければ
 書き残すべき言の葉もなし
 西崎 文恵
 ○古家の引き戸をひ孫気に入りて
 開けては閉めて二時間遊ぶ
 宮下喜久子
 ○わが返事聞こえぬ夫が幾たびも
 今朝のコーヒー旨しと言えり
 河上 明美
 ※新しくの葉短歌会で、昨年の11月に発刊された短歌誌の終刊から抜粋した短歌です。

編集後記

昨年の秋から始めた投稿写真コーナーですが、最初は投稿がなく観光協会などに呼び掛けて、写真を提供して頂いていました。

今では、毎月何件かの問い合わせがあり、今回は1ページ使って掲載することができました。

毎回全部の写真を掲載することはできませんが、投稿には応えていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

Y.O

トールペイントで美しい風景や花を描く技法を学ばせてもらいました。真剣に取り組みながらも描くことを楽しんでいる姿が、作品の美しさとして表れているのだろうと感じました。

東海婦人学級のバラ園でも美しく咲き誇るバラに見ほれ、コロナ禍でも心癒やされる取材をさせてもらいました。

M.O

愛南町の世帯数と人口

令和3年5月1日現在

世帯数	10,157世帯 (+3世帯)
人口	20,269人 (-31人)
男	9,609人 (-13人)
女	10,660人 (-18人)
愛南町の高齢化率	44.8%

※ () 内は前月比

●10年前 同月の人口 25,027人

編集・発行